吉野歴史資料館だより

たぎつみやどころ

第3号
（通算第6号）

龍門のながめ（竜門岳麓を流れる嶽川から南を望む）

【特別寄稿】龍門騒動について、今何を問うべきか。― 谷山 正道氏「龍門騒動 200 周年に向けて」

【編集】吉野歴史資料館　【発行・お問い合わせ先】吉野町教育委員会事務局　【発行日】平成 29 年 10 月 1 日

吉野歴史資料館　奈良県吉野郡吉野町宮滝 348　※吉野歴史資料館は 3 ～ 11 月の土日祝開館。平日のご利用は教育委員会事務局まで要予約。
HP：http://www.town.yoshino.nara.jp/about/shisetsu/dentou/rekishishiryokan.html
吉野町教育委員会事務局　奈良県吉野郡吉野町上市 133　☎：0746-32-0190　fax：0746-32-5689　mail：syakai_e@town.yoshino.lg.jp

龍門騒動に動きあり！

このところ、吉野町にとってメモリアルな年が続いています。昨年は吉野町制六〇周年。今年は大津京遷都（せんと）一三五〇年。来年は龍門騒動から二〇〇年にあたります。

龍門騒動とは、現吉野町の龍門地域と、現大淀町内の一部村々が起こした、江戸時代後期の百姓一揆です。百姓たちを痛めつけた役人の殺害にまで及んだ、激しい一揆でした。

今年度、龍門騒動の実態をより明らかにすべく、天理大学前教授の谷山先生をお招きし、地元自治会の協力を得て、西谷区有古文書の事前調査を行いました。すると、龍門騒動について書かれた未発表の古文書が確認されたのです！

今、龍門騒動から二〇〇年を目前にして、一体何がわかっていて、何が問題となっているのでしょうか。本紙では、谷山先生より龍門騒動についてご寄稿いただきました。お楽しみください。

子どもたちが来てくれたよ

今年の5月～7月、ふるさと教育の一環として吉野北小学校と吉野小学校※の6年生が、職場体験として吉野中学校2年生が、やまんびこ探検隊として木の子文庫のみなさんが、資料館に来てくれました。展示解説、どんぐり調理実験、木簡クイズなどを通して、笑いあり、なるほどありの吉野歴史体験をしてもらいました。　※来館順

メールマガジン、始めます（予告）

ヤホー！おなじみのモミだよ♪

最近思うんだけど、『たぎつみやどころ』って不便だよね。年二回しか出ないから、いつ次が届くのかヤキモキするし、「届いた！」って思ったら、終わった講演会の情報が載ってたりするし…。

そんな文句を担当に言ったら、「じゃあメールマガジンもしましょうか。」って。役場のメール配信システムに登録してくれた人に、資料館の情報なんかを定期的にメール配信してくれるんだって！

今、担当が必死でメールマガジンの準備中だよ。担当がサボらないように、僕、毎日見張ってるから！

平成29年度 秋冬季 吉野歴史資料館イベントのお知らせ・報告

※各イベントは、開始２時間前に何らかの気象警報が吉野町にだされていた場合、中止します。

歴史講演会

●平成二九年一〇月二二日（日）
「葛城地域と壬申の乱」
講師：下大迫 幹洋 氏（香芝市教育委員会事務局副主幹）

※平成三〇年一月二八日に変更。

●平成二九年一一月一一日（土）
「花笠行事の来た道
―伊賀・甲賀の花奪（はなば）い行事と伊勢南街道の祇園祭―」
講師：池田 淳（吉野町教育委員会事務局）

●平成二九年一二月一〇日（日）
「護良親王と元弘の乱」
講師：山田 徹 氏（同志社大学文学部助教）

●平成三〇年 二月二五日（日）
「龍門騒動の新知見
―西谷区有文書の調査成果から―」
講師：谷山 正道 氏（天理大学前教授）

●平成三〇年 三月一八日（日）
「平成二九年度 史跡宮滝遺跡調査速報」
講師：中東洋行（吉野町教育委員会事務局）
時間：一四時～一五時三〇分
場所：吉野町中央公民館　定員：八〇名
費用：各五〇〇円

【各講座等にご参加いただくには】
電話、FAX、またははがきで、吉野町教育委員会事務局社会教育係までお名前・ご住所・電話番号・参加希望講座をお知らせください。

上野誠の吉野万葉塾

●平成三〇年 三月三一日（土）
講演①「壬申の乱、万葉集、そして吉野」
講師：上野 誠 氏（奈良大学文学部教授）
講演②「壬申の乱と皇位継承」
ゲスト：瀧浪 貞子 氏（京都女子大学名誉教授）
対談 上野 誠 氏 × 瀧浪 貞子 氏
時間：一三時三〇分～一六時三〇分
場所：吉野町中央公民館　定員：八〇名
費用：五〇〇円　要申し込み

現地学習会

●平成二九年一二月 一日（金）
「斎宮（さいくう）と斎宮歴史博物館」
【主な行先】斎宮歴史博物館ほか

●平成三〇年 一月一九日（金）
「尼寺（にんじ）廃寺とその周辺の文化財を歩く」
案内人：山下 隆次 氏（香芝市教育委員会生涯学習課）

●平成三〇年 二月二三日（金）
「王寺町の文化財を歩く」
案内人：岡島 永昌 氏（王寺町地域交流課）
集合：吉野歴史資料館前　九時
吉野町中央公民館前　九時一五分
参加費：五〇〇円（観劇料・燃料代別）
解散時間：一七時三〇分　定員：二〇名

連携講座 ※原則、講師は当館職員です。

【with 近鉄文化サロン】

●平成二九年一一月一八日（土）
「大汝詣（おなんじまい）り ― 聖地と禊（みそぎ）―」

●平成三〇年 一月二〇日（土）
「朕（われ）、今日汝らとともに〝庭〟に盟して
― 吉野宮の庭・宮滝遺跡の苑池（えんち）遺構を考える ―」

●平成三〇年 三月 三日（土）
「吉野山のさくら ― 美しさを伝える言葉 ―」
時間：一〇時三〇分～一二時
場所：and 近鉄文化サロン阿倍野（大阪市阿部野区阿倍野筋 2-1-40）
費用：一般 一、六二〇円 会員 一、一八八円

【with 熊野古道センター】

●平成二九年一二月 九日（土）
「〝川の吉野〟と〝雪の吉野〟から〝花の吉野〟へ」
時間：一三時三〇分～一五時　費用：無料
場所：三重県立熊野古道センター（三重県尾鷲市向井一二―四）

※連携講座にご参加いただくには、各連携先へのお申し込みが必要となります。

【各お問い合わせは…】
吉野町教育委員会 ○七四六―三二―○一九○
熊野古道センター ○五九七―二五―二六六六
近鉄文化サロン ○六―六六二五―一七七一

【特別寄稿】

龍門騒動２００周年に向けて

天理大学文学部 前教授　谷山　正道

◇

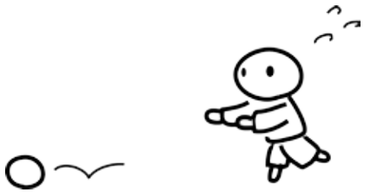
あと三か月ほどで、明治維新から一五〇年という記念すべき年を迎えます。また、来年は、大和国吉野郡で龍門騒動と呼ばれる百姓一揆が起きてから二〇〇年という節目の年にもあたります。

龍門騒動は、文政元年（一八一八）の年末に、旗本中坊（なかのぼう）氏の知行地で起きました。十二月十五日の夜に、中坊氏の支配下にあった吉野郡内の一五か村（石高合計で三五〇〇石）のうち、矢治村を除く、小名・柳・香束・平尾・西谷・峯寺・志賀・滝畑・立野（現吉野町内）と、西増・比曽・矢走・持尾・岩壺（現大淀町内）の計一四か村の百姓数百人が、竹槍を携えて平尾村にあった代官所へ押し寄せたのです。この年、江戸の領主のもとから派遣されてきた役人濱嶋清（はまじまきよし）らが、例年よりも年貢の米納分を増やして品質を厳しく吟味するとともに、銀納分についても納入値段のつり上げをはかり、領民の声を無視して増徴を強行しようとしたことが一揆の原因でした。

◇

代官所への強訴（ごうそ）を企てたのは、西谷村細峠の又兵衛さんや源八さんらでした。領内の村役人らは、合法的な形で年貢の引き下げを求める訴願を行っていましたが、これでは埒（らち）が明かないと判断した又兵衛さんらは、領内の各村へ張紙をして、一揆への参加を呼びかけました。これに応じた百姓たちが、打ち合わせどおりに寄り集まり、山口村の大宮寺の鐘の音を合図に代官所へ押し寄せたのです。竹槍を携えて一番に代官所内へ駆け入った比曽村の定吉さんが、濱嶋によって切られると、百姓たちの怒りは頂点に達し、屋根の上に逃げ上った濱嶋を大竹で突き落とし、竹槍などで突き殺しました。龍門騒動は、過酷な年貢の取り立てを行って百姓たちを痛めつけた役人の殺害にまで及んだという点で、全国的にも珍しいケースでした。それ故に処罰も厳しく、主謀者の又兵衛さんが「奈良町引き廻しのうえ陣屋の近くで獄門（ごくもん）」、西谷村の林蔵さんなど三人が「死罪」、一七人が「重追放（じゅうついほう）」、五人が「所払（ところばらい）」、六六人が「過料（かりょう）」（罰金刑）とされたほか、関係した一四か村、年預庄屋と各村の庄屋・年寄・惣百姓にも、それぞれ「過料」が課せられました。なお、処分の申し渡しまでに、主謀者の又兵衛さんや「死罪」とされた三人をはじめ、この一揆に関わった二七人がすでに命を落としていました。そのほとんどは、奈良奉行所での厳しい取り調べによるものでした。

こうした多くの犠牲者を出して、一揆は終結しましたが、一揆の精神は、「一つとえ　龍門騒動は大騒動　二十までつくった手まり唄　うたおうかいな」で始まり、「二十でおさまるこの唄は　うとうておくれ孫子供　たのむわいな」で終わる手まり唄に託して、後世まで伝えられていくことになったのです。



◇

龍門騒動は、第二次世界大戦後、国民的歴史学運動が推進されるなかで注目され、木村博一氏らによって、掘り起こしが行われました。その成果は、「大和の龍門騒動」と題する論文（『歴史評論』四一号、一九五三年）などとして、まとめられています。それから六五年ほどにもなりますが、その間に当一揆の処罰に関する史料など、いくつかの関係史料が発見されたものの、木村氏らの研究成果を大きく乗り越えるような成果は、いまだに現れるには至っていません。

しかし、これまでの成果で十分であるというわけでは決してなく、①一揆前の村落の状況はどうであり、一揆後にはどうなったのか、②一揆前の年貢収奪の動向はどうであり、一揆後にはどうなったのか、③一揆の中心となった村々と、追従する形で参加した村々、また唯一参加しなかった矢治村との違いはどこにあったのか、④一揆をリードした人々は、どのような存在であり、村のなかでどのような位置にあったのか、⑤有名な手まり唄は、いつ頃に誰によって作られたのか、といった重要な問題が、ほとんど未解明のまま残されています。

これらの問題を解き明かしていくためには、各村に残っている古文書の調査（発掘）が不可欠であり、先日から吉野町教育委員会の事業として、地元の方々のご協力を得ながら、西谷の区有文書を皮切りに、調査を開始しました。龍門騒動２００周年に向けて、地元で結成されています「龍門騒動を考える会」のメンバーの方々とも連携しながら、この一揆の実像を明らかにする作業を進めていきたく思っています。

【著者紹介】
谷山　正道（たにやま　まさみち）
専門は大和を中心とした江戸時代（特に民衆運動）について。広島大学博士（文学）。広島大学助教授を経て天理大学文学部教授。二〇一七年三月退職。
主な著書に、『近世民衆運動の展開』（一九九四）、『奈良県の歴史』（二〇〇三）、『民衆運動からみる幕末維新』（二〇一七）など。吉野町では二〇一五年・二〇一六年に龍門騒動についての講演を行っていただいている。